

會合ス、是亦加越四大河ノ一ナリ、此川中古マデ舟渡ナリシヲ、柴田家ノ時、橋ヲ掛初タリトイフ、半ハ板半ハ石ニテ造ナセリ、九十九橋トモ、米橋トモ又木□□□□ナルガ故ニ掛合橋トモ稱ス、
〔東遊記二〕九十九橋

越前國福井の町の真中に大なる川流る、此川にかけ渡せる橋をつくも橋といふ、九十九橋と書り、其大さ三條の橋程もありて、半までは石橋なり、石橋の大なるもの天下是に勝るものなし、半より木の橋なり、是は常なみの橋なり、石と木を續合せたる橋は珍敷橋也、いかなる故と尋るに、皆石橋となす時は大洪水の時、全體ともに崩れて、其再興大かたならず、半を木の橋にせる事は、大洪水の時、木の所ばかり落て、水淀まざるゆるに石の所は恙なくして、橋の全體損ずることなし、故に跡の造作心易しと也、大なる橋は何方の橋もかくなしたきもの也、橋の普請の時も石の所は千歳不朽なれば、只木の所半分の手間にて濟事なれば、別而心やすかるべし、

〔遊囊賸記 二十三〕足羽ハ中古北庄トイヒケルガ、國初ヨリ□□□□改メラル城外一帶ノ大河ヲ足羽川トイフ、九十九橋トテ百間許ノ長橋ヲカケテ、前後に高門ヲ建タリ、海内無双トスベシ、

福井舟橋

〔和漢三才圖會 三十四 船橋 略 中〕

越前、福井北有川、其幅凡百四十丈、用八十餘艘、但舟數多少、任水増減耳、其地名舟橋、

〔遊囊賸記 二十三〕黒龍川南ヲ船橋ノ宿、北ヲ森田ノ宿トス、此川モ又加越四大河ノ一ナリ、
〔遊囊賸記 二十三〕坂野說、船橋ハ吉田郡ナリ、柴田家ノ時、初テ舟橋ヲ掛ラル、

〔東遊記二〕九十九橋

福井の東に舟橋あり、越前にては名高けれども、是は越中の神通川に渡せるものに不及、
前福井の舟橋の鎖は、柴田勝家の造り置れし鎖なりといへり、誠に此鎖容易の事にあらず、